

PDCAサイクルの設定（認知症への取組）

資料3

R7.11.11

目指すべき姿						
認知症の人を支援する医療や介護の専門職の連携強化により、本人の尊厳が守られ、安心して生活できるようにする。						
課題 ()内は提案元		対応策 Plan 令和7年度の取組予定	実施 Do	評価指標 Check	効果確認	改善 Act
① 訪問看護師が、認知症の方が地域で暮らしていくため病院側の認識の差を感じる。（訪問看護部会）		12月23日(火)MSW等地域連携会議の開催により多職種連携の強化を図り切れ目ない支援体制の構築	①②③⑧ 9月27日(土)多職種連携研修会 テーマ「ACPに基づいた意思決定支援を考える」 講話及びグループワーク	多職種研修アンケートより多職種連携体制がとれていると感じるものの割合増 ・研修の理解度と評価など	(多職種研修アンケートより) ・多職種連携体制がとれていると感じるものの割合 ACP : 88% 薬とケアマネ : 69%	
② ケアマネは、認知症の方の意思決定支援の教育を十分に受けておらず家族の意向に引っ張られる。（介護支援専門員協議会）		9月27日(土)多職種連携研修会	④ 10月19日(日)薬剤師とケアマネジャーの研修会 講師:牧野 泰幸氏「在宅医療・介護連携における薬剤師の役割」 グループワーク「ケアマネジャーと薬剤師の連係(携)プレー」 薬剤師とケアマネジャーの連携強化	・研修アンケート (G.W「よかった」の割合) ACP : 82% 薬とケアマネ : 100%		
③ 医師の指示を理解記憶することが難しいので支援方法について迷うことが多い。（介護支援専門員協議会）		10月19日(日)薬剤師とケアマネジャーの研修会	⑤⑥ 10月24日(金)認知症講演会 ■ 10月24日(金)認知症講演会 ■ 認知症センター養成講座、ステップアップ講座の開催 ■ やさしいお店事業所の拡大等 ■ 地域全体で支え合う体制を整えていく	(認知症講演会アンケート) 新しい認知症観の浸透など	・新しい認知症観について学べたと回答した人 38.1% ・オレンジ大使の話：よかったです回答した人の割合 97% ・細井医師：91%	
④ 薬の管理が行えないことがある。（介護支援専門員協議会）		袖ヶ浦さつき台病院認知症疾患医療センター長 細井 尚人氏	■ ア・イ 認知症本人ミーティング（仲間と話そう）の開催 ■ 認知症ピアサポート活動の実施 ■ ア・イ 認知症地域支援推進員、認知症初期集中支援チームによる支援	■ 認知症センター養成講座開催数、センター養成数 ■ やさしいお店事業所の数 ■ チームへの依頼者の傾向（認知症高齢者の日常生活自立度、障がい高齢者の日常生活自立度の高い方のチームへの依頼の増） ■ 本人ミーティングの実施回数	■ 認知症センター養成講座開催数、センター養成数の増加 (R6年度24回、534人) (R7年度10月末時点 19回 851人) ■ やさしいお店事業所数 (R6年度末：44ヶ所 R7年10月末：50ヶ所) ■ チームへの依頼 (R6年度：24人) R7年10月末：12人 II以下:11人、J以下: 7人 ■ 本人ミーティング：7回 ■ ピアサポート数 R6: 2名 R7: 3名 ■ ガイドブック配架窓口数 R6: 159ヶ所 R7.9月末: 195ヶ所 ■ 認知症カフェ R6: 登録団体9件 R7: 登録団体11件	
⑤ 新しい認知症観が住民に浸透しておらず、患者及び家族もマイナスイメージを持っている。（行政）		■ 10月24日(金)認知症講演会 ■ 認知症センター養成講座、ステップアップ講座の開催 ■ やさしいお店事業所の拡大等 ■ 地域全体で支え合う体制を整えていく	■ ⑤⑥⑦⑧ ■ 10月24日(金)認知症講演会 ■ 認知症センター養成講座の実施 ■ ステップアップ講座の開催、やさしいお店事業所の拡大 ■ 認知症初期集中支援チームによる支援 ■ 本人ミーティング（仲間と話そう）の開催 ■ 認知症ピアサポート活動 ■ 認知症ガイドブック配架場所の拡大 ■ 認知症カフェの開始支援	■ 認知症センター養成講座開催数、センター養成数 ■ やさしいお店事業所の数 ■ チームへの依頼者の傾向（認知症高齢者の日常生活自立度、障がい高齢者の日常生活自立度の高い方のチームへの依頼の増） ■ 本人ミーティングの実施回数	■ 認知症センター養成講座開催数、センター養成数の増加 (R6年度24回、534人) (R7年度10月末時点 19回 851人) ■ やさしいお店事業所数 (R6年度末：44ヶ所 R7年10月末：50ヶ所) ■ チームへの依頼 (R6年度：24人) R7年10月末：12人 II以下:11人、J以下: 7人 ■ 本人ミーティング：7回 ■ ピアサポート数 R6: 2名 R7: 3名 ■ ガイドブック配架窓口数 R6: 159ヶ所 R7.9月末: 195ヶ所 ■ 認知症カフェ R6: 登録団体9件 R7: 登録団体11件	
⑥ 認知症の疑いの時期から診断までの間の支援につながっていない「空白の期間」が平均1年1ヶ月、診断されて介護保険サービスなどにつながるまでの支援につながっていない「空白の期間」が平均1年5ヶ月とされている。（行政）		■ ア:空白の期間 平均13.35か月 ■ イ:空白の期間 平均16.93か月 ■ 認知症の疑い (違和感) → 認知症の診断 → 介護保険サービス導入 ■ ア 受診につなげる方法 ■ イ 申請につなげる方法	■ ⑤⑥⑦⑧ ■ 認知症センター養成講座の実施 ■ ステップアップ講座の開催、やさしいお店事業所の拡大 ■ 認知症初期集中支援チームによる支援 ■ 本人ミーティング（仲間と話そう）の開催 ■ 認知症ピアサポート活動 ■ 認知症ガイドブック配架場所の拡大 ■ 認知症カフェの開始支援	■ 認知症センター養成講座開催数、センター養成数 ■ やさしいお店事業所の数 ■ チームへの依頼者の傾向（認知症高齢者の日常生活自立度、障がい高齢者の日常生活自立度の高い方のチームへの依頼の増） ■ 本人ミーティングの実施回数	■ 認知症センター養成講座開催数、センター養成数の増加 (R6年度24回、534人) (R7年度10月末時点 19回 851人) ■ やさしいお店事業所数 (R6年度末：44ヶ所 R7年10月末：50ヶ所) ■ チームへの依頼 (R6年度：24人) R7年10月末：12人 II以下:11人、J以下: 7人 ■ 本人ミーティング：7回 ■ ピアサポート数 R6: 2名 R7: 3名 ■ ガイドブック配架窓口数 R6: 159ヶ所 R7.9月末: 195ヶ所 ■ 認知症カフェ R6: 登録団体9件 R7: 登録団体11件	
⑦ 高齢者サポートセンターへの相談は認知症の症状が進行しているケースが多い。認知症の疑いや、診断されて間もない時期での介入が課題（認知症地域支援推進員、高齢者サポートセンター）		■ 認知症カフェ、ピアサポート活動の実施 ■ 認知症のある人の社会参加の促進				
⑧ チームが支援するケースは認知症初期の段階ではなく、生活がしづらくなってから介入することが多い。（認知症初期集中支援チーム）		■ 9月27日(土)多職種連携研修会 ■ ア・イ 認知症地域支援推進員、認知症初期集中支援チームによる支援				